

笑顔咲くバラグッズ続々

2025年世界バラ会議福山大会へ

お香

学校の花びらで挑戦 光小の児童

福山市草戸町の光小の児童は、地元開催の世界バラ会議を盛り上げようと、学校で育てたバラでお香を作るプロジェクトに挑戦している。海外客にも喜んでもらえるお土産を目指し、3年がかりでパッケージも完成させる。

学校の花壇で栽培する香りの強いバラ「ミスターリンカーン」の花びらを集め、煮沸して蒸留水を取り出す。蒸留水を市販のお香キットの粉末と混ぜて作る。

昨秋、6年生の約50人が蒸留水を使ってお香を練り、ウサギやクローバーなど思い思いの形に型抜きをした。中島菜菜さん(12)は「しっかり香りがついて

いる。いろんな人に福山のバラやお香作りの取り組みを広めた」と意気込む。

取り組みは、バラのグッズを独自に開発する地元の三谷干城(とやま)さんの達成感につながれば」と願っている。



ウサギやハートの形にくりぬいたバラのお香を並べる児童